

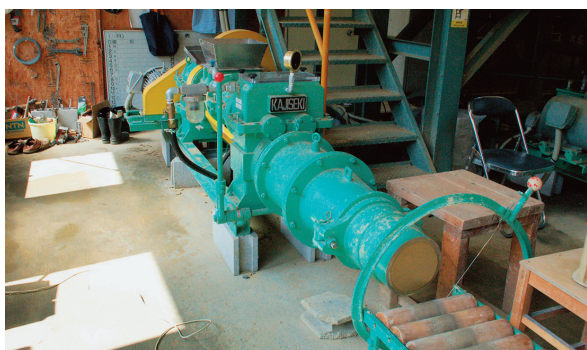
不純物が少なく、純度の高い粘土を精製・提供し、質の良い「純笠間焼」と笠間焼の耐熱陶器「笠間火器」で笠間焼のブランド化を推進

笠間焼協同組合

事業計画名 ■ 専用精製機導入による笠間粘土及び笠間耐熱粘土の品質の改善

事業概要

ステンレス製真空土練器の導入で、素地の安定化とエネルギー削減を行い、安定した笠間粘土・耐熱粘土の供給を実現。笠間粘土のみで焼成する「純笠間焼」での商品開発や、笠間土に副原料を配合した量産向け粘土の提供、耐熱食器「笠間火器」への耐熱粘土提供など、高まる笠間土の需要に対応できるようになった。



ステンレス製真空土練機

取り組みの経緯

茨城を代表する工芸品のひとつである笠間焼は、江戸時代の安永年間（1772～1781年）に誕生し、地元の土を用い、かめなどを生産していた。しかし、第二次世界大戦後はプラスチック製品などが出回るようになり需要が低下していった。そうした中、笠間焼をもう一度発展させるために1950（昭和25）年に焼き物を研究する県窯業指導所が開設された。全国の陶器を研究し上質の陶器を求めた結果、「笠間で作られていれば、笠間の土を使わなくても笠間焼と呼ぶことになりました」と、笠間焼協同組合事務局長の深町明さんは長い歴史を振り返る。そのことが、現在200以上の窯元を抱える焼き物の里を形成するきっかけの一つになった。

かつての笠間焼といえば、笠間の土の色である濃い茶色で、かめやすり鉢などが代表的な作品だった。しかし現在、笠間で作陶されるものは、

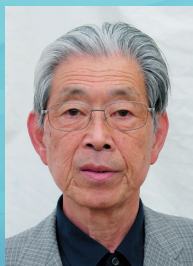
粘土の色もさまざまで、作品も食器類からオブジェ、小物など幅広い作品が並ぶ。その多様性が大きな魅力である半面、「では、笠間焼とはどういうものか、と問われた時に、これ、といえるものがなくなってしまいました」と深町さん。そこで、1996（平成8）年に発足した笠間焼協同組合は、笠間の土を使って笠間で作られる「純笠間焼」を笠間を代表する焼き物の一つにするべく、笠間粘土の精製を事業の一つとして取り組むことになった。

事業の具体的内容及び成果

笠間の土で作ろう、という人が少なくなっていたのは、笠間粘土の難しさにあった。笠間の土は鉄分を多く含んでいるため黒っぽい。鉄分の多い土は作陶の際に割れやすく、機械での大量生産に向かないという難点があった。しかし逆に、機械に向かないということは、手作りに向いているということでもある。ロクロを用いて手で作ることで、ごく薄く、軽い陶器が実現する。



粘土集積場と精製された粘土



笠間焼協同組合

理事長 大津 廣司さん

笠間焼の良さは多様性と自由さにあります。その中で、笠間焼独自の焼き物として笠間の土で焼いた純笠間焼がもっと多く作られることで、笠間焼、ひいては笠間を全国の人に、海外の方にも知ってもらいたいと思います。

質の良い陶器を作るためには粘土の質が良いことが求められる。純度は作陶中の割れなどの破損率に直結する。笠間焼協同組合の粘土精製工場は、約20年の年月を経て機器が老朽化。機械内に生じたさびなどの不純物の混入により粘土の質が不安定化し、精製の最終工程である粘土から空気を抜く作業で100%真空にならないといった問題が生じていた。空気が抜けきっていない土で作陶すると、焼成の際に窯の中で爆発してしまう。

新たに導入したステンレス製真空土練機は、ステンレス製の羽根状の部品を回転させ、粘土を練りながら空気を抜いていく。新たなステンレス製真空土練機の導入で、不純物の混入が減少し、安定して上質な笠間粘土の精製が可能になった。また、純笠間焼の焼成温度は1,250℃必要だったが、粘土の純度を高めたことで1,200℃での焼成が可能となり、燃料費の削減、環境への影響も軽減することにつながった。現在は、笠間粘土と、火に直接かけられる耐熱陶器として注目を集めている「笠間火器」用の粘土の精製を行っている。

事業成果の活用・今後の取り組み

笠間粘土は、100%笠間の土から作るものと、副原料を配合し、量産化に対応したブレンド土の2種類を精製する。焼成方法は、窯に酸素を十分に送り込んで赤っぽく仕上げる酸化焼成と、酸素を止めてサビ色を出す還元焼成の2種があり、酸



純笠間焼。土の風合いが豊かで、軽く、笠間火器。耐熱の陶器として注目を浴びている



素の量により色合いが変化する。笠間の粘土独特の色と風合いが十分に楽しめ、手にした時の薄さ、軽さは上質で、陶器の印象を変えるほど衝撃的だ。

「多彩で自由な作陶ができるという風土も残しながら、扱いやすく、安定して供給できるようにになった粘土で、もっと多くの人に、純笠間焼と笠間のブランド陶器である笠間火器に取り組んでもらいたい」と深町さん。地元だけでなく、全国へ、そして広く海外へ笠間焼の名前がとどろくようになるため、笠間粘土は、笠間焼が新たな道を歩みだすその一歩を担っている。

笠間焼協同組合



〒309-1611 笠間市笠間2481-5

TEL.0296-73-0058

FAX.0296-73-0708

<http://www.kasamayaki.or.jp>

資本金：3,370万円 組合員数：162人

組合員のための共同施設の設置・運営管理、必要とする資材・副資材の共同購入、宣伝、共同販売等を行う。「笠間の陶炎祭」も主催している。